

# 余川中道遺跡

余川中道遺跡は近尾川の両岸に広がる古墳時代（下層）と中世（上層）の遺跡です。

上層（IV層）の調査では、建物の柱穴や溝などの遺構が見つかり、遺物では土師器はじきのほかに青磁せいじや白磁はくじが出土しました。平成21年度の調査で見つかった中世集落の一部と考えられます。

下層（VI層）の調査でも、建物の柱穴や溝が見つかりました。このうち溝（SD3605）は古墳時代中期のもので、長さ1.4m、幅2.8m、深さ40cmで、21年度の調査で見つかった部分を合わせると長さは31.4mになります。この溝からは、以前の調査で多くの土師器はじきがつぶれたような状態で出土しました。今年度も同じように高杯たかつきが出土するとともに、土師器の破片も多く出土しています。この溝の埋土を水洗うすだましたところ、白玉が3点見つかり、またすぐ近くからも白玉が2点出土しています。マツリに使われた土師器や白玉が溝に持ち込まれたと考えています。



余川中道遺跡から小出方面を望む（南西から）



調査区全景（下層）



溝（SD3605）高杯出土状況



溝（SD3605）出土の用途不明木製品



遺跡の位置と周辺の主な遺跡



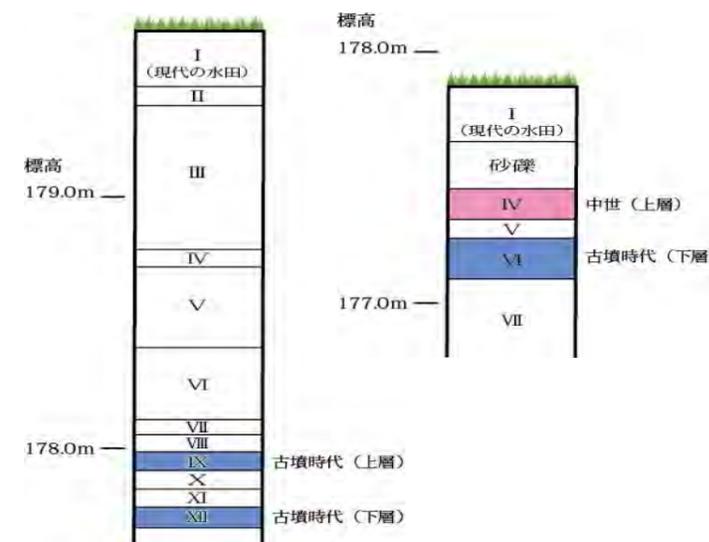
# 六日町藤塚遺跡・余川中道遺跡 出土品展



六日町藤塚遺跡から湯沢町方面を望む（北東から）

六日町藤塚遺跡と余川中道遺跡（南魚沼市余川）は、国道17号六日町バイパスの建設に伴い発掘調査を行いました。六日町藤塚遺跡は今年度から調査を開始し、余川中道遺跡は5回目の調査になります。

両遺跡とも庄之又川や近尾川によって形成された扇状地に立地しており、調査区内にはさまざまな時期に起きた洪水や土石流の痕跡が見られます。標高は約177~178mです。また、周辺には飯綱山古墳群や蟻子山古墳群（いずれも県史跡）が位置しています。



六日町藤塚遺跡土層模式図

余川中道遺跡土層模式図

平成29年10月28日（土）

国土交通省 北陸地方整備局 長岡国道事務所  
新潟県教育庁 文化行政課  
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 六日町藤塚遺跡

六日町藤塚遺跡は、古墳時代中期から後期（5世紀後半～6世紀前半頃）にかけての遺跡で、IX層（上層）とXII層（下層）から遺構と遺物が見つっています。上層と下層の間には洪水層が堆積しています。

上層では、焼土3基、溝1条、ピット10基、土器集中1か所、河川1条が見つかりました。このうち、焼土（SX3）は、焼けた土の周りに人頭大の石が並び、周辺からは煮炊きに使われたと思われる土師器甕の破片がたくさん出土しています。



六日町藤塚遺跡（上層）



土器集中（SX6）

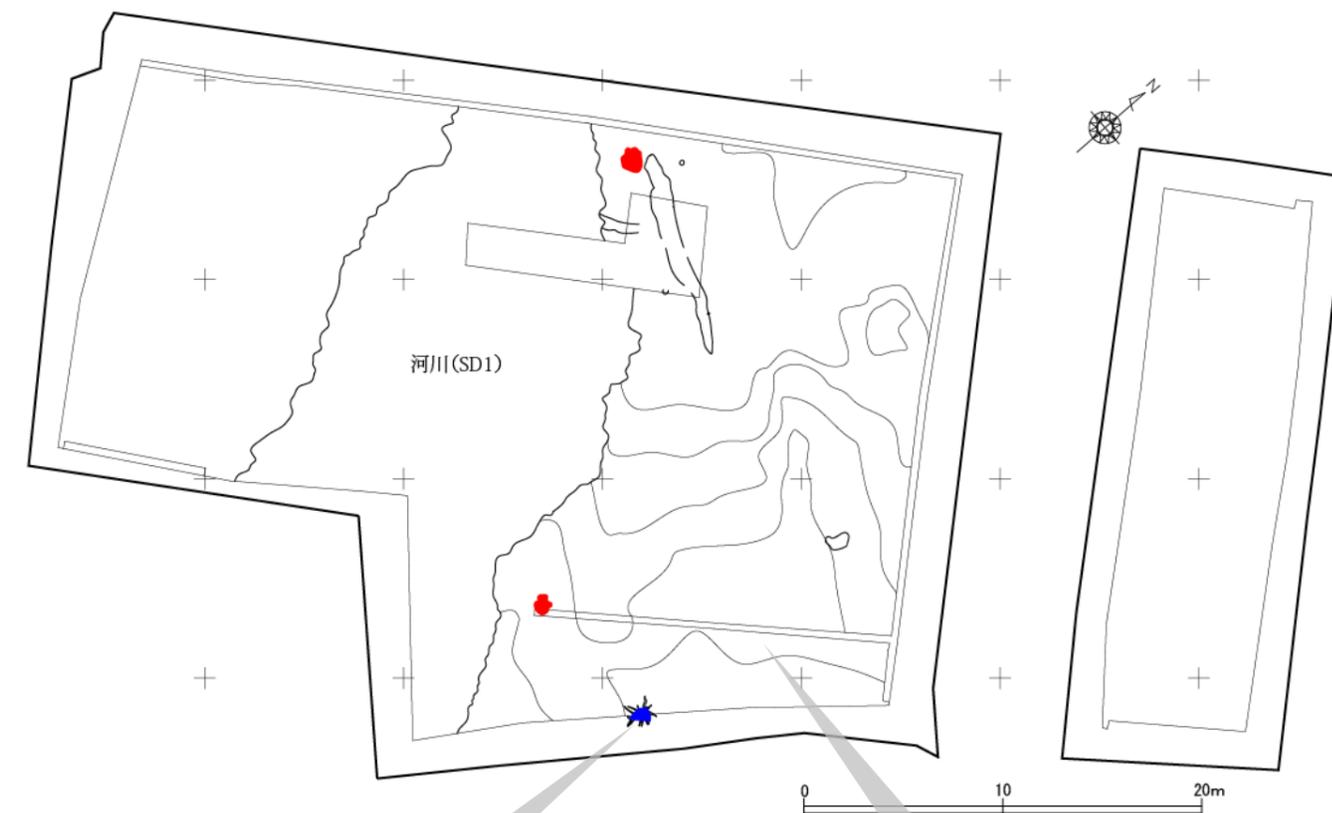


焼土（SX3）

河川（SD1）は、古墳時代の層より上に堆積するVII層を切っている比較的新しいもので、これにより上層も下層も調査区中央付近が大きく削られてしまっています。

下層では、焼土2基、溝2条、土坑1基、ピット2基、性格不明遺構1基が見つかりました。このうち、性格不明遺構（SX17）としたものは、すでに腐って空洞化している木の根元から、マツリに使ったと思われる土器群や滑石製の白玉64点、勾玉形1点などが出土しています。同様に木の根元から土器が出土した遺跡として、胎内市六斗蒔遺跡（古墳時代中期）があります。

調査区からは、ほかにも白玉が6点出土していますが、上層・下層ともに焼土の周辺から出土する傾向があります。



六日町藤塚遺跡（下層）



性格不明遺構（SX17）



4H6区 須恵器甕・鉄製品等出土状況